R. S. C. D. S.
東京ブランチレター

No. 42

RSCDS 75周年協賛　S.C.D.Party 開催

去る12月19日（土）1.00～5.00p.m.新宿区牛込簞笥町の区民センターで150 人余の会員が参加して盛大に行われました。

当日は、スコットランドから前チェアマンのクレメントご夫妻を迎え、和やかな中にも楽しい雰囲気で進められました。また、JOHN DREWRY から送られたレシピに依るスコッチ・ケーキが出てスコットランドの雰囲気を盛り上げていました。

☆　クレメントさんのお話

パーティーにひき続きRSCDSの前チェアマンのクレメントさんのお話がありました。お話は多岐にわたり、又途中で質問がはさまれたりしましたが、紙面の都合もありRSCDSの歴史と現在を中心としておおむね下記のようにまとめてみました。

＊ Society創立(1923年)以前のこと

スコティシュ・カントリー・ダンスでもっとも古いマニュスクリプト(手書き原稿)は、ホルメイン・マニュスクリプト(1710 1720)で、その中のいくつかは Society から出版されている。(Bookに収録)　Scottish Country Dance Book として最初に出版されたものはディヴィド・ヤングによるもので(1740 or 43)、それには "For The Use Of His Grace Of Duke Of Perth"(パース公爵夫人のために)という献辞がある。また最近ウィンザー城でジャコバイトについて調べていた人がジェイムズVIIIの二人の息子、かの有名なボニー・プリンス・チャーリーとローマン・カソリックの枢機卿になったヘンリーが、それぞれパース公爵あてにだした二通の手紙をみつけた。それはハイランド ドレス一式と、スコティシュ カントリー ダンスの本をもらったことへのお礼状であった。1745年にジャコバイトの蜂起でボニー・ プリンス・チャーリーがスコットランドに来た時、ホルメイン・マニュスクリプトに載っていた"THIS IS NO MY AIN HOOSE"(Book15)をリクエストしたといわれている。これらの事例から、また18世紀中頃にはおもにイギリスで、又スコットランドでもＳＣＤの本がつぎつぎに出版されるようになったことからもわかるように、この頃からスコティシュ・カントリー・ダンスは踊られるようになってきたのである。また当時ハイランドダンスが西海岸地方やその近くの島々で、メニュエットはエディンバラやグラスゴウ等の都市で踊られていた。

1923年頃になると、スコティシュ・カントリー・ダンスはカドリールやランサーズやワルツにとってかわられ、あまり踊られなくなってしまった。それでも貴族階級の人々の間ではまだ少し踊り続けられていたし、一般の人の間でも少数の人々はＳＣＤを踊り続けていた。しかしこの一般の人々の踊り方は、"style"を失いひどい踊り方であった。ちょうどこのころにMiss MilliganとMrs Stewartが出会ったのである。

＊ Society設立の頃

Mrs Stewartは貴族階級に属していて、ＳＣＤがまだ踊られている環境の中にいた。彼女はガールズ・ガイド（ガール　スカウトのようなもの）にかかわっており、そこではイングリッシュ・ダンスが教えられていたが、ここはスコットランドなのだからスコティシュダンスを教えるべきであると考えた。そこでMrs Stewartは12のＳＣＤを書きとめ出版社に持っていったところ出版社の人から、Teacher's Training Collegeで教えているMiss Milliganに会って一緒に活動をしてみたらどうかとすすめられた。ここから二人の偉大な女性たちのパートナーシップがうまれたのである。1923年にグラスゴウで誕生したSocietyはまたたくまにスコットランド中にBranchをつくり広まっていった。Miss Milliganの念願はスコットランドの踊りを一緒にまとめることであった。第二次世界大戦後ＳＣＤはスコットランドで盛んになりその後世界中に広まっていった。

＊ 現在および将来私たちがなすべきこと

いま私たちが踊っている踊り方はSocietyが定めたものであり、1923年以前は Skip Change of Stepは1805年出版のフランシス・ピーコックの本に載ってはいるが、大部分の人はすべてをPas De Basqueで踊っていた。いまでもそのように踊っている人々は大勢いる。私たちはSocietyの定めた踊り方を保存しなければならないが、Societyの踊り方は伝統的な形を発展させた(developed)ものであり、いまだに伝統的なかたちで踊っている人々も大勢いるということを認識すべきである。

Societyを保護しそれを確固たるものにするためには、スコットランドでＳＣＤを踊っているすべての人々を一緒にすることが必要であり、それによってSocietyはおおきくなっていくのである。そのためにはいろいろな "style" を尊重すべきである。

踊るのに重要なことは二つある。一つは音楽を感じ音楽にあわせてリズミカルに踊ることであり、二つ目はフォーメィションにあわせてきちんとフレィズィングをとることである。そうすればセットが壊れることはなく、皆で楽しく踊れるのである。この二つが最も重要であると私(Mr Clement)は主張したい。

♪　ブランチ　ショップからのお知らせ　♭

カセットテープ:　Book 21　8本　/　Book 22　7本　（両方共　1本 2100円 ）
Free Spirit　3本　　1本 1700円

連絡先: 渡辺 悦子　〒 350 0222　坂戸市清水町18 11　Tel 0492 81 6427 (Faxも同)

９８年度　東京ブランチ合宿研修会の報告

2月27～28日の２日間、昨年同様３コースに分かれての合宿研修会が行われました。
以下は各コースの指導担当者代表と受講者代表の方（at random に選びました）にご意見をいただきました。

＜Ａコースを担当して＞

佐藤　仁美

Ａコースは、プレリム受験希望者クラスで、試験の前には当然トレーニングコースを受けなければなりませんが、それまでにどんな勉強をしておけば良いかを知っておくことを目的に、池間さん、松橋さんと３人で担当、ピアニストは村上さんでした。

内容としては、①ＲＳＣＤＳ・ブランチ・ティーチャーの役割・トレーニングコースと試験等全般的なことのレクチャー、②ソサイエティの歴史と目的・音楽・指導法等理論的なことの理解の必要性を体験するためのミニ筆記試験、③実技は課題曲のブリーフィングとダンス・基本ステップのブラッシュアップ、④指導法はフォーメイション及び１６小節の指導・ダンスの分析等について、と広範囲にわたりました。

参加者の皆さんの真剣で熱心な様子を見ていると、自分がプレリムのトレーニングを受けた時も、緊張でピリピリ、不安でドキドキしながらも必死で頑張ったことを思い出しました。皆さんも苦労していましたが、やはり一番難しかったのは「レディー　アンド！」で、ピアニストにずいぶんと助けてもらいました。また昨年の合宿の時、私はエディンバラで行われたチューターコースに参加していましたが、ティーチャーになるためには、指導・実技・理論が高い水準で要求され、その水準に達するようキャンディデイトを指導するということは、本当に大変なことだと痛感してきました。

今回は「こんな風にするんだ」「こんなことに普段から注意して練習するんだ」ということを知り、また実際に指導してみるとなかなか思った通りには出来ない（先ずアガッテしまう）難しさを身をもって知ってもらうための体験コースと考え、殆ど全員の方に声を出していただきましたが、指導することの難しさ、正確に踊ることの必要性を実感していただけたと思います。誰も始めから上手には出来ません。ここを出発点にして2000年のエグザムに向けて頑張って下さることを願っています。皆さんも疲れたでしょうが、私も、いっぱい勉強させていただき、シッカリと疲れてしまいました。今度はもう少しリラックスして楽しいクラスに……と反省しています。

「合宿Ａクラスに参加して」

増田　静子　　松田　正子　　吉江　紀美

私達３人は、同じフォークダンス・グループに所属し、またそれとは別に各自が各々のＦＤグループを指導している２０数年来の仲間です。ＦＤを通じて知ったＳＣＤのすばらしさに魅了され虜になり、Teacher の居ない田舎でも多くの仲間とＳＣＤを楽しみたいと、１人はＦＤの例会の内、月１回をＳＣＤに当て、２人は無謀にもＳＣＤのグループを始めてしまいました。お互い悩みや疑問は共通で何とか良い指導方法を身に付けたい、その為のヒントを得たいという切実な思いで昨年、今年とＡクラスに参加しました。

増田……昨年はダンスの分析、指導プランの組み立て方を勉強し目からウロコだった。
今年はいきなりBriefing練習。３－４人の方が当てられクラス全員が緊張した。ブランチが本腰を入れて指導者を育てようとしている姿勢がひしひしと感じられた。

吉江……次に突然の筆記試験。30分間必死で書いたが、まとめる訓練も必要。

松田……２日目はStep指導(3分位) Formation 指導(5-6分) 16小節20分間指導、何を指定されるかハラハラ、ドキドキ。 Pas de basqueの指導を指定された。
Step、Formation 等、細かい点への注意を自分で考える方法の勉強になった。

増田……Jig の 2C Allemande を含む16小節の指導を指定された。今回は全員が指定されたがそれに対する先生方の熱心なコメントが参考になった。

吉江……Strathspey Step で16小節の指導。Stepの変わり目の注意を忘れて悪い見本の代表。Teaching Plan をきちんと書く練習もしないと。見るとするのは大違い。

松田……ピアニストにはお世話になった。共に勉強して共に向上してゆきたい。

吉江……私達の声掛けが下手なので疲れたことでしょう。感謝。多謝。

増田……実際の指導にあたっては“しゃべりすぎるな”“動かせ”“踊り込め”この３点の注意が心に残った。試験の具体的な全容が良くわかった。

吉江……試験のための指導訓練、受験テクニックの勉強に重点が置かれたクラスだったが普段していることがいざとなると出来ないことを思い知らされた。遥か道遠し。

松田……このＡクラスの勉強会を、受験者の為だけでなく指導方法の勉強をする機会として残してほしい。受験は出来ないがクラスを持っている人も多いと思う。

増田……先生方のお話はどれも興味深く内容の濃いものばかりで、一言も聞き逃すまいと緊張している。どうぞ大声でなく普通のボリュームでお願いします。

学ぶことはちょっと苦しいけれど楽しい。充実した２日間で大満足の帰途でした。池間先生、佐藤先生、松橋先生ありがとうございました。また合宿運営に携わった委員、ボランティアの方々、ありがとうございました。そしてクラスの皆さんありがとう。不思議な連帯感が生まれた気がしました。またご一緒したいですね。　　（文責　吉江）

Ｂコースのまとめ

Ｂコース担当；荒井　千文

Ｂコース指導担当は３人。
まず有田さん。紳士的でソフトな感じ。だけど「これは譲れない」という何か１本スジが通っている。
大野さん。アットホームで肩肘張らず、和やかムード。
そして荒井。いつもの　"さっさっさ、ぱっぱっぱ"とは一味違う（本人はそう思っている）感じの、三者三様の楽しいクラスであったと思います。
というのも、Ｂコースの「ダンスをよりダンシングするために」という大きなにも関わらず、すべての講習時間が終わった時のコース参加者の笑顔。その笑顔の中に充実感・満足感が感じられたから……。これは私だけが感じたことではないと思います。

Ｂコース講習曲目

講習	Ⅰ（有田）	1. PETRONNELLA (R)　2. LORD ROSSLYN'S FANCY (J)　3. ANNA HOLDEN'S STRATHSPEY (S)　4. LOCH LEVEN CASTLE (R)
講習	Ⅱ（荒井）	1. MINARD CASTLE (R)　2. STAFFIN HARVEST (S)　3. MISS MARY DOUGLAS (J)
講習	Ⅲ（荒井）	1. THE GATHERING (R)　2. THE QUEEN CITY SALUTE (M)
講習	Ⅳ（有田）	1. WEST'S HORNPIPE (H)　2. FIDDLE FADDLE (S)　3. THE SKI TOW (J)
講習	Ⅴ（大野）	1. THE DEIL AMANG THE SAILORS (R+J+H)　2. MARY STEWART'S STRATHSPEY (S)

「Ｂコースに参加して」

菊池　　順

今年はＢコースに希望者が殺到し、希望が通ったことはラッキー、真面目に受講しなくては申し訳ないとスタートする。一番広い部屋に３セット弱の人数、終わってみたら足の親指の爪に血豆のみやげを持ち帰りました。Ｂコースは「ＳＣＤをさらに深く勉強する」がねらいでした。３人のティーチャーからは丁寧に基礎練習をしてもらう。基本ステップ・ステップの切換え・手を取った時の高さ・サークルはきちんと○で・アイコンタクト・フィギュア……その場はなんとかＯＫがでますが、いざ曲を踊りだすと練習したことをすっかり忘れ、順序を追うことのみに気持ちがいっている。先生方はさぞやがっかりされたことでしょう。アドバンス以上の人達の集りだったらもっと気配りをして踊ることが必要だと思いました。フィギュアとフィギュアを繋げる時すんなりゆかない曲を数曲取り上げていただいたのは良い勉強になりました。次回もこんな曲をお願いします。ただ、FIDDLE FADDLE の１７～２４→２５バースのところ、私はこれで４回教えてもらう機会がありました、４通りの踊り方でした。どう対処すべきか疑問が残りました。

＜Ｃコースを担当して＞

林 浩子

Cコースは"スコティシュ・カントリ・ダンスを楽しむ"というのが大きなテーマで、指導担当者は5名でした。『楽しむ』とひと口に言っても、真に楽しむためには楽しむためのそれなりのルールがあると私には思えます。私は"Use of Hands"(手の取り方、手の扱い方)を、今回の私の小さなテーマにしました。心を合わせ本当に楽しく踊るためには、『手の使い方』と"EYE CONTACT"が欠かせないものだからです。他の4人の方々も、『楽しむ』という大きな目的のもとにそれぞれ工夫をこらして、楽しいダンスを準備してくださり、またダンスを選ぶのにも担当者の個性があらわれたりして、なかなか楽しいクラスだったと思います。担当者とそのダンス名を記します。

田村 妙子: THE SILVER THISTLE (R 3C 32) THE SILVER ROSE (R 4C 32)
THE SILVER CITY (S 3C 32)
掛川 純子: MRS LESLYE BUCHANAN (R 3C 32) FIDDLE FADDLE (S 3C 32)
小幡 正明: THE MERCAT CROSS (R 4C 32) GLENDARROCH (S 4C 32)
THE FOUNTAIN (J 4C 32)
林 浩子: MO'S JIG (J 3C 32) THE WELLS OF SWONA (S 4C 32)
THE LONDON ARGYLLS (R 3C 32)
鳥山 豊喜: DOMINO FIVE (R 5PERSONS 32) THE BELLS OF MORNINGSIDE (S 3C 32)
51 DIVISION (R 5S 32) CULLA BAY (S 4C・SQ 32)

「Ｃコースに参加して」

綾部 まゆみ

それとなく春の日差しが感じられる２月の終わりにブランチ合宿が石川島研修センターで行われました。いつものようにA.B.C の３クラスがあり、それぞれのクラスがそれぞれの目的を持って行われました。私はＣクラス「ダンスを楽しむクラス」に参加しました。
私達の参加者の中にはオーストラリアから参加の方もいました。彼女は日本語は全く出来ないけれど皆に混じって楽しんで居られました。二日間の合宿では担当のティーチャーが個性を発揮して、楽しいもの、少しややこしいもの、難しいが楽しいもの等々が行われました。また、使用する音楽によって同じダンスでも楽しさが変わり、音楽の大切さを学びました。
楽しく、そして勉強になった二日間でしたが、残念な事も有りました。それは私達のＣクラスだけがピアノでのクラスが一度も無かったことです。ＢとＣクラスは同じような立場でクラスが行われていたと思うのですが、Ｂクラスは殆どをピアノで行い、Ｃクラスは一度も無かったのです。色々問題はあると思いますが、部屋を交代するとか方法は有ったのではないでしょうか。
二日間、好きな事を楽しみながら学んだのですから不満を言ってはいけないのかも知れませんが……。でも、生演奏で踊る楽しさは、テープで踊る楽しさとはまた違ったものがあります。音楽とダンスが楽しく、そして踊り手の私達もチームワーク良く、踊り終わった時に充実した満足感が得られて「楽しかったネ」と、笑顔で終われるのではないかと思います。

☆ 1998年度 Society第69回ＡＧＭの報告がクレメント篤子さんよりとどいています。
抜粋を掲載します。

＊ 税務署より、チャリティ団体としてのソサイエティ規約改正要請に対し、以下の通り可決。
ソサイエティの目的に『一般市民への伝統的スコティシュ カントリー ダンスの普及とその助長』が追加。またあらたに『ソサイエティが解体した場合、負債支払い後の一切の資産は会員で配分するのではなく、同様の目的をもつ団体またはチャリティ団体に譲渡される』と『ソサイエティによってまたはソサイエティの代わりに集められた資金は、ソサイエティの目的の為にのみ使用され、それ以外の目的に使用されるものではない。但し正当とみなされる職員の給与や専門家及び技術的助言に対する報酬、会員の必要経費の支払いはその域ではない』の項目が加えられる。（これらが承認されたのでブランチ規約モデルも同様に改正される）

＊ 新役員紹介
チェアマン：リンダ・ゴール、 副チェアマン：アラン・ メア、 執行委員（6名）：
アレスター・ マクファージァン、 レスリー・ マーティン、 ディヴィッド・ ワトスン、
アイリーン・ ベネット、 ヘレン・ フレーム、 マーガレット・ ロス

＊ アフィリエイテッド グループの承認（ 全部で15グループのうち日本のみ紹介 ）
上尾、葛飾、北九州、北本、広島、アイリス(坂戸)、ウインズ(能代)、横浜、与野の各SCD group

＊ 2000年に予定されている日本での試験は人数が多数に及ぶことが予想されるので、日本/オーストラリアとせず、日本のみの単独イグザム ツアーとすることが決定。

＊ 現在英国内のブランチにはソサイエティが傷害保険をかけている。全ブランチを同等に扱うという意味で、海外ブランチにも傷害保険をかける方針をとることにした。（現在本部は英国内のブランチ毎に£22当たりの保険金をかけており、海外の場合はブランチ毎に£78当たりとなる－1999年7月1日から執行予定）

＊ 会員勧誘の一つの手段として、『友人を二人ソサイエティ会員に勧誘したメンバーには、サマー スクールに1週間無料で参加できる懸賞に名前を登録できる』を決定。2000年サマー スクール参加の懸賞を開始。

＊ ソサイエティへ寄付をする場合二つの方法がある。ミス・ミリガン基金に寄付をするとソサイエティ年会誌に名前が登録され、単にソサイエティへの寄付だと一般会計に入金され名前は登録されない。

＊ 1999年のサブスクリプションは、ブック40。初心者や青少年向けの踊りが中心となる。音楽は一般から募集する。ＣＤにはブック40とチルドレンズ・ブックを収録する。

＊ ブック25のバンドはアレスター・ハンター、ブック26のバンドはアラン・ガーデナーによって録音。

＊ ブック32－34をヴィデオ1本に、ブック35 36、37-38をそれぞれ1本ずつのヴィデオにまとめて販売

＊ ティーチング ポイントの解説をいれたヴィデオをブック1から製作する。但し一つの踊りに対して最高でも2回の繰り返しとし、1本のヴィデオに数冊分のブックを収録する。

＊ "An Introduction to SCD"と"Hopscotch"は増刷せず売り切ることに決定。希望者は至急購入することをお勧めします。

これは抜粋です。全文を読みたい方はセクレタリーにお申し込みください。(実費)

☆　ブランチからのお知らせ　☆

＊ 新年度登録更新および新会員登録を別紙を参照して手続きをしてください。
新会員を2名紹介すると2000年のサマー・スクールの1週間分の費用が無料になるクジに名前を登録される。（同封のニューズ・レターの用紙を使用）

＊ 4月のブランチ・クラスは従来通り明大前の二階堂ハース・スポーツと芸術ホールで行われるが、5月からは下記の会場に変更になる。(地図参照)

5月ブランチ・クラス
日時: 5月1日(土)　今までとほぼ同じ
場所: 港区立生涯学習センター
(港区新橋3 16 3)(Tel: 3431 1606)
JR新橋駅下車烏森口徒歩1分

＊ ブランチ総会
日時: 5月29日(日) 時間はおってお知らせします。
場所: 上記と同じ　港区立生涯学習センター

＊ 2000年にFull CertificateとPreliminaryの試験を予定しています。サークルに所属していない受験希望者はセクレタリーまでお申し出ください。

＊ 99年度からSociety本部の会費が年0.5ポンド値上げされ、年次会員は6.5ポンドに。

＊ 99年度の配布冊子はBook40ですが、家族会員の方は他のブック・ナンバーでもよい。

＊ サークル紹介について
96年度の会報に載っているサークルで変更のある場合、または新規のサークルは、『サークル名、連絡先(氏名、住所、電話番号)、例会日と場所、行事』をセクレタリーまでハガキ又はFaxでお知らせください。

☆ グループ告知板
＊　4月24日(土) 25日(日)　関西ホワイトヘザーダンサーズ・パーティー
神戸市立フルーツ・フラワーパーク　16,000円　締め切り 4月7日(水)
連絡先: 太田快人　Tel 0798 41 1044

RSCDS 東京ブランチレター No.42 1999. 3. 20 発行
編集責任者　林　浩子
〒188-0014　田無市芝久保町 3-23-19
TEL&FAX.(0424)61- 7386

発　行　RSCDS東京ブランチ
C/O　〒300-0841 土浦市中 1319-11
吉沢　敦子
TEL&FAX 0298-41-0767